

# 令和3年度 探究活動中間発表会

## 探究活動中間発表会を終えて

二年四組 長谷川真奈 (川西中出身)

この度、中間発表会にて最優秀賞をいただきましたことを大変光栄に思います。

私は、部活動で西吾妻山に登ったことをきっかけに、「西吾妻山と山岳信仰」というテーマで研究を行いました。山に登って札や神社を目にしたときに、「これはなんだろう、どういうものだろう」という疑問を抱いたことから始まり、調べてわかったことから山岳信仰との関係を考察しました。

個人での研究だったこともあり、ポスターや要旨、原稿の作成ではとにかく時間に追われました。練習時間もかなり少なくなってしまうのですが、手書きの図を用意したり、発表直前に原稿に補足を加えたりして、少しでも分かりやすく、詳しく伝えようと心がけました。

今回の発表を通して、研究に必要なのは、どんな素朴な疑問でも明らかにしようとする探究心だと感じました。今後は、今回の研究で新たにできた考察や疑問に対して調査を進め、本発表に向けて研究を完成させていきたいです。



## 環境DNAを用いた

### 「コオイムシ」の生息環境の調査

二年二組 松井はんな (叶水中出身)

日本では、人間の活動がもたらす影響により、絶滅危惧種、準絶滅危惧種が増加している。水生昆虫のコオイムシ (*Appasus japonicus*) もその一種であり、現在は日本の準絶滅危惧種に指定されている。そこで、私達はコオイムシの保全を目的として、生息場所とその環境の調査を行った。調査には環境DNAを解析する技術とPCR法を用いた。まず、

コオイムシの飼育水を使い、用意したプライマーの有用性を調べたところ、有用性が確認できた。その後、実際に水路等から採取した試料をPCRにかけ、電気泳動をかけた。その結果、調査した二地点中一地点でバンドが確認されたため、その場所の環境を比較してコオイムシに適した環境の考察を行った。今後は調査する地点数を増やし、コオイムシの生息域マップの作成を目標として活動していきたい。

令和3年12月24日発行  
 第51号 山形県立  
 米沢興譲館高等学校  
 〒992-1443  
 山形県米沢市大字笹野1101  
 TEL 0238-38-4741  
 FAX 0238-38-2531  
<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

## 中間発表を成し遂げて

二年五組 金子 望愛 (米沢二中出身)

私は、今回プロジェクト型研究領域で『いかがですか？YOUもArtで活性化!!』というテーマで発表しました。米沢の明るい未来のために今、私にできることは何かと考えた際に、Art×米沢という新たなイベントを開催することだと考えました。お客さんに魅力を伝えて、活性化へのきっかけとなるような年齢を問わず参加でき、人と人が繋がれるイベント開催を目標に日々、準備を進めています。伝統文化である『紅花染め』、そして新しい文化の『ガラスアート』、『チョークアート』を地元の企業さんと共に皆さんにお届けします。

発表では、皆さんに私の思いを伝えることができたのか、皆さんの嬉しいコメントを頂きました。ポスターや発表の順序など、いかに聞き手に興味を持って頂けるか試行錯誤しながら準備しました。今後も万全なコロナ対策を行ったイベント開催実現に向け、そして二月に行われる本発表に向けて感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。



# 全国大会出場報告

## ラストインターハイ

水泳部 三年二組 戸田萌々香 (米沢六中出身)

令和3年度インターハイ出場

昨年コロナの影響で全ての試合がなくなり喪失感で気持ちが切れてしまいました。今年こそと臨んだラストインターハイ。二種目とも予選四位通過と自分の演技ができました。決勝は緊張とプレッシャーで思うように体が動かず、高飛び込みのみ八位入賞に終わりました。また、初めて出場した日本選手権では大学生に圧倒され一種目のみ八位入賞という結果でした。高校生の集大成で今まで最多の五つの全国入賞をすることができ、嬉しく思います。大会を開催してくださった方々、支えてくださった方々、全ての皆様にご挨拶申し上げます。



## 得られたもの

CSS部 二年二組 井上 桃希 (米沢五中出身)

第四十五回全国高等学校総合文化祭自然科学部門出場

七月三十一日から九日間行われた全国高等学校総合文化祭の自然科学部門に出場した綿貫先輩に同行する形で、参加させていただきました。その際に全国レベルの研究発表を聞くことができ、とても刺激的でした。研究の方針、実験の手法はとて分かりやすく論理的で、その上発表の仕方においても多くの気付きがあり、私が目指すべきものが少し分かった気がしました。今回得られたものを今後活かしていこうと思えます。

七月三十一日から九日間行われた全国高等学校総合文化祭の自然科学部門に出場した綿貫先輩に同行する形で、参加させていただきました。その際に全国レベルの研究発表を聞くことができ、とても刺激的でした。研究の方針、実験の手法はとて分かりやすく論理的で、その上発表の仕方においても多くの気付きがあり、私が目指すべきものが少し分かった気がしました。今回得られたものを今後活かしていこうと思えます。



## 三年間の集大成

フェンシング部 三年三組 峯田 大空 (米沢三中出身)

令和3年度インターハイ出場

三年間積み上げてきたものの集大成として、三年生全員がインターハイの大舞台に立つことを嬉しく思います。私は、入賞という目標を達成することが出来ず、悔しさが残りますがこれまで努力した経験は大きな財産となり、新たな目標の原動力となりました。部員をまとめてくれたキャプテン、切磋琢磨し共に励んだ仲間、そして指導してくださった先生の存在は大きく、感謝の気持ちでいっぱいです。大学では世界で戦える選手になれるよう頑張ります。



# 文化部の活躍

## 最高の絵を

美術部 二年二組 中川 梓 (高島中出身)

美術部では、展覧会に向けて様々な作品を創り上げています。この度は私は、全国総文祭、通称「文化部のインターハイ」の県予選となる県高文祭に出品し、特選を受賞しました。憂懼（心配し恐れる事）と成長をテーマに、小さな頃の私を優しく抱きしめてあげられるような自分自身の成長を表現しました。締め切り前は徹夜をし、納得のいくところまで描き込みました。県高文祭では、県内の高校生の作品に圧倒され刺激をいただきました。八月に開催される全国高文祭に向けて、最高の絵を目指して作品に全身全霊を捧げます。



山形県高等学校美術展 優秀作品

## 全国を知るといふ経験

CSS部 一年二組 鍵水 大青 (米沢七中出身)

僕たちは「WRO Japan 2021 決勝大会 in 東京」に参加させていただきました。WROは、教育用ロボットプログラムを使って機体を作成し、コースに適應したプログラムを組み、正確さと速さを競う大会です。決勝大会では、他のチームの機体やプログラミングの特徴をお聞きして、自分たちの今後の課題の発見に繋がりました。また、全国レベルの高さとも体感することができました。今回の大会で学んだことは、次の大会に活かしていきたいと思えます。最後になりますが、この大会の参加に協力していただいた、顧問の先生、先輩方に感謝申し上げます。



[WRO Japan 2021 決勝大会 in 東京] 出場

## 31首に込める思い

文芸部 一年二組 石井倅之介 (米沢四中出身)

今年度の新聞文芸部は、新聞「興譲」の発行と新聞や文芸関係の各種コンクールへの応募を中心に活動を行っています。この度受賞させていただいた山形県高校文芸コンクールには散文・詩・短歌・俳句の各部門があり、今回私の作品は短歌部門の最優秀・優秀・佳作に選ばれました。受賞の知らせに私自身非常に驚きましたが、ふとした日常の一場面を切り取った歌を評価していただき、大変ありがたく、今でも余韻に浸っております。今後も31首の中に存分に思いを込められるように創作活動に励んでいきます。



山形県高校文芸コンクール短歌部門最優秀賞受賞作品

「ひらひらと 舞う 桜見て思い出す 習ったばかりの 物理法則」

## ディベートを通して得たもの

ESS部 二年五組 二馬 菜摘 (小国中出身)

私達ESS部は十月二十九日に開催された高校生英語ディベート大会山形県大会に参加しました。英語ディベート大会とはTOEFLのReadingとListeningの憲章を第一に、指定されたトピックについて英語で議論する大会です。昨年度は先輩方を中心としたチームが県大会優勝という成績をおさめ、私達は前年度優勝校として出場したのですが、改めて英語ディベートの難しさと先輩方の凄さを感じました。私達のほとんどがディベート未経験者だったので、準備期間から部員全員で協力し、本番では自分たちのスタイルで、ベストを尽くしてディベートを楽しむことができたので良かったです。また、この大会を通して協力することの大切さ、サポートしてくれる人たちのありがたさを学びました。全国大会は逃してしまいましたが、この結果を今後に生かしていきたいです。



# 令和3年度米沢興譲館高校生徒自治会執行部

## 生徒自治会長からひとこと

### 関わりの中で

前生徒自治会長 三年四組 太田 彩 (高島中出身)

九月十九日に行われた創立記念講演では、興譲館の卒業生でいらっしゃる元フェンシング日本代表の池田めぐみさんのお話から、目標達成に向けて柔軟にアプローチしていく姿勢を学びました。興譲館は池田さんのように様々な場所で活躍されている先輩方を多く輩出している伝統校であるということに改めて認識しました。在校生とかつての興譲館生との関わりを重んじることが、本校の伝統たる所以であると感じます。さて、本校の生徒自治会は引き継ぎを終え、新会長を中心に動き始めました。自治会内外の人との関わりの中で、今後の生徒自治会の活動が伝統ある本校のさらなる発展となることを期待しています。



## 創立135周年記念講演会 講師紹介

池田めぐみ氏 (平成10年3月 本校卒)  
元フェンシング・女子エペ選手  
公益財団法人日本スポーツ協会理事

【競技歴】  
2003~2005年 全日本フェンシング選手権大会 女子エペ 個人優勝  
2004年 アテネオリンピック エペ 個人28位  
2008年 北京オリンピック エペ 個人15位  
2010年 広州アジア大会 エペ団体優勝

## 長としての務め

新生徒自治会長 二年二組 齋藤 映斗 (白鷹中出身)

今回、このような執筆の機会をいただいたこと誠にありがたく存じます。私は入学時には自分の周囲に知人が一人



## 宮崎県立高鍋高等学校との交流

来年こそは二年目のオンライン交流をふりかえって、

新生徒自治会副会長 二年四組 五十嵐裕直 (米沢一中出身)

山形県米沢市と宮崎県高鍋町は上杉鷹山公がきっかけとなり姉妹都市提携を一九八四年から結んでいます。これをもとにした興譲館・高鍋高校交流会は今年で第二十二回目を迎え、今年も去年と同様オンラインでの開催となりました。現地を訪問して実際に高鍋町の文化や歴史を見たり、体験したりは出来なかつたものの、オンラインでの交流という貴重な体験が出来てよかったです。来年こそは高鍋高校へ訪問して歴史ある交流会が有意義で実りあるものになることを願います。



オンラインで交流中

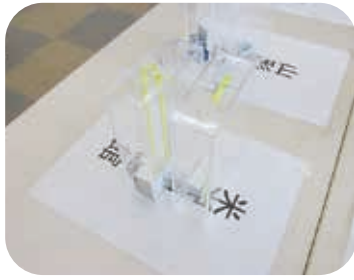
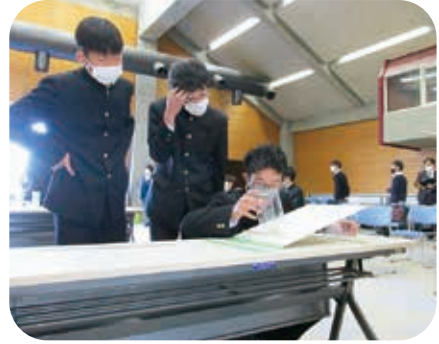
新生徒会自治会

# 第11回科学の甲子園山形県大会参加報告

## 県内科学力No.1決定戦

二年二組 市川 晴琉(米沢四中出身)

この度、令和三年度「科学の甲子園山形県大会」に参加してきました。ご存じでない方に向けて、「科学の甲子園」とは何かについて簡潔に説明します。これは県内の高校の代表チームが集い科学的な発想力を競い合う大会で、今年で十一回目の開催となります。本校からは、二年生の八人が学校代表として参加しました。「科学」というネーミングから文化部が関わる大会と思われがちですが、この度参加した八名は興譲館高校の科学的な能力を全県下にアピールすることを目標に、部活動の垣根を越えて選抜されたメンバーでした。私自身、普段はサッカー部員として部活動を頑張っていますが、いつもとは違った仲間とチームを組んで大会に参加することに、とても新鮮な気持ちになりました。科学の甲子園は「筆記」と「実技」の二部門があり、メンバー一人ひとりがそれぞれの場面で活躍しました。結果は十六校中三位で、全国大会出場とはなりませんでしたが、上位入賞を果たすことで、学校代表チームとして興譲館高校の科学的発想力の高さを証明し、さらに個人的にも競技科学の面白さを知ることができた有意義な大会だったと思います。



# 興譲祭

theme/再興

theme song/Mela!/緑黄色社会



## シン・コウジヨウサイ

興譲祭実行委員長

二年二組 我妻 知弥(米沢二中出身)

今年度の興譲祭のテーマは「再興」。これはかつての興譲祭を再び興し、最高の文化祭にしようという思いで決定しました。今年はコロナ禍のため、飲食の提供を行わないなどの感染対策を徹底し、一般公開なしで新しい興譲祭を創造する必要がありました。そのため、自治会執行部や有志の興譲祭幹部と話し合いを行い、各クラス・各活動ごとに企画を立ててもらおうという形になりました。個人的な数々の企画により興譲祭を成功させることができました。おかげで僕も坊主にはなりませんが後悔はありません。来年の興譲祭も期待しています！